

(仮訳)

プレス・リリース

2020年3月20日

バーゼル銀行監督委員会は、新型コロナウイルス感染症への政策上・監督上の対応について協調

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は、2020年3月20日に電話会議を開催し、急速に世界規模で拡大している新型コロナウイルス感染症（Covid-19）がグローバルな銀行システムに与える影響について議論した。

新型コロナウイルス感染症の拡大は重大な段階に達しており、経済活動に対してますます著しい影響を及ぼしている。バーゼルⅢ基準は、過去10年にわたって銀行システムの強靱性を強化してきた。グローバルな銀行システムは、従前より十分に高い水準の資本及び流動性を有しており、そのため、ショックを吸収し銀行業務の混乱を軽減する上でより強固な立場にある。銀行及び監督当局は、グローバルな銀行システムが引き続き財務上及びオペレーショナルに強靱であることを確保するため、新型コロナウイルス感染症の展開していく性質を踏まえ、緊張感を維持しなければならない。

メンバー法域は、新型コロナウイルス感染症の金融安定上の影響を緩和するため、広範な規制・監督上の措置を追求している。これらの措置は、銀行による実体経済への貸出、及び銀行の秩序ある損失吸収能力の促進に焦点を当てている。バーゼル委は、これらの措置の目的を支持し、必要な場合はメンバーが更なる措置を実施する柔軟性を有することを確認する。

バーゼルⅢ枠組みは、ストレス期に利用されるように設計された資本及び流動性バッファを含んでいる。これらは、資本保全バッファ、さらにはカウンター・シクリカル・バッファ及びシステム上重要な銀行（SIBs）に対するバッファ、また、銀行による適格流動資産（HQLA）のストックを含む。実体経済の支援及び損失吸収のための資本リソースの利用は、裁量的な社外流出よりも現時点で優先されるべきである。適格流動資産のストックは、流動性需要に応えるために利用されるべきである。既に多くの監督当局は、現在の環境に対応するための柔軟性を許容するこれらのツールを活用するよう、銀行に促している。

バーゼル委は、新型コロナウイルス感染症の銀行業務及び監督上の含意を引き続き評価し、これに対処しており、分野横断的な金融システム上の問題に関して、金融安定理事会（FSB）や他の基準設定主体と積極的に連携している。足もとの取組みとして、バーゼル委は、すべての政策的取組みの市中協議を停止しており、整合性評価プログラム（RCAP）の下で 2020 年に予定されていたすべての残された法域評価を延期している。

今後数日の間、バーゼル委は、この先例のない期間における、銀行の財務上の強靱性、及び銀行・監督当局のコミュニティ双方のオペレーショナルな強靱性を支援することを目的とした追加的措置を検討する。